

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	土木建築部 河川課
評価対象期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	大分県リバーパーク犬飼	施設種別	レクリエーション・スポーツ
	所在地	豊後大野市犬飼町田原字舞田		
	設置目的	大野川の優れた景観を生かし、スポーツ及びレクリエーションの場を提供することにより、県民の健康で文化的な生活の向上を図る。		
指定管理者	名称	豊後大野市		
	代表者名	豊後大野市長 川野 文敏		
	所在地	豊後大野市三重町市場1200		
指定管理業務の内容	①大分県リバーパーク犬飼の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ②大分県リバーパーク犬飼の利用の受付及び案内に関する業務 ③大分県リバーパーク犬飼の利用の促進に関する業務 ④前各号に掲げるもののほか、県が特に必要と認める業務			
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成25年4月1日～平成30年3月31日(5年間)			

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1	施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み
	(1)施設の設置目的の達成
	①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。
	②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。
	③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果を得られているか。
	④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。
	【所見】
	○ リバーパーク犬飼は、開設当初から県が整備した多目的グラウンドとカヌー艇庫、豊後大野市が整備したキャンプ場、テニスコート、アスレチック等を市が一括して管理することで効率的・効果的な運営を図っている。
	○ 多目的グラウンドの利用者数は、29年度9,054人と目標指数10,500人を下回った。さらに、25年度13,491人、26年度13,154人、27年度11,424人、28年度9,671人、29年度9,054人(目標指数10,500人を下回る)と年々減少している。これは、27年度から冬芝の張替を中止したことによる芝の状態の悪化や県内に芝のグラウンド施設が増加したこと等が影響しているものと思われる。
	○ クラブチームや県内の高校、中学校のサッカー部が継続的に利用している。また、市が所有するサッカー場を併用する形での大会や合宿の実施といった利用形態は定着してきている。
	○ 市の施設の利用者層と県の施設の利用者層に違いがあることや、県、市施設間が地形的に分離されていることから、施設間の有機的な連携が取りにくい。
	(2)利用者の満足度
	①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
	②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
	③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
	④利用者への情報提供が十分になされたか。

⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

- 施設利用者へのアンケートを実施した結果、29年度は、利用手続の容易さなどの各項目及び全体的満足度について「大いに満足」もしくは「満足」の回答を受けており、25年度から29年度の毎年、高評価を受けている。
- 利用者の意見については、サッカー協会やカヌー協会など所管団体に対して、29年度に管理運営についての意見聴取を行った。主な内容としては、サッカー協会から「芝の状況が28年度と比較して29年度は良好となったので、今後も同様の維持管理をお願いしたい。」という意見を得た。こうした意見もあったことから、30年度から適切な芝の管理を行うために、県も費用負担を行うこととした。
- 利用者への情報提供として、市の所管する施設も含めて、市や(公社)ツーリズムおおいたのHPによる情報発信を行った。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1)経費の低減等

- ①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【所見】

- 本施設は、管理運営費を利用料金で賄うこととしており、県からの委託料の支出はない。29年度でいえば、施設利用収入は年間2,381千円であり、不足分は豊後大野市が負担している。なお、前述のとおり芝の適切な管理を行うために、30年度から県も費用負担を行う。
- 芝の管理については、民間業者に再委託をしており、芝を適正に管理し良好なコンディションで利用者に提供できるよう、業務の実施状況について適宜検査を行っている。なお、委託業者の選定は入札により行っている。
- カヌー艇庫については、大分県カヌー協会に再委託をしており、カヌー艇庫の収入で維持管理経費を賄っている。

(2)収入の増加

- ①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

- 収入増を図るためには利用時間の増が必要となる。しかしながら、天然芝のグラウンドであることから、利用時間の増(利用数の増)は、芝のコンディションの悪化につながることになる。適切な芝の管理のためには、利用制限が必要と思慮されることから、30年度から水曜日、土曜日、日曜日、祝日以外は原則、利用制限を行っている。このため、30年度と31年度は、収入・利用者数・芝のコンディションを見極めることとしたい。
- 豊後大野市において、県営と市営のサッカー場利用者に対する優遇措置として宿泊補助及び食事補助事業を行っている。この事業を活用し、全国規模のサッカー大会を誘致する等スポーツツーリズムの推進を図っている。

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

(1)施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

- ①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。
- ③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

【所見】

- 適正なスタッフの配置により、適切な安全管理に努めている。
- カヌー艇庫の管理については、大分県カヌー協会に再委託をしている。これにより、利用者目線での適切な管理が行われているとともに、カヌー協会にて小学生等を対象としたカヌー教室を開催する等、公の施設にふさわしい取組みも行われている。

(2)平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。

②施設の利用者の個人情報保護するための対策が適切に実施されているか。
③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。
⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
⑥防犯や事故等の危機管理体制、防災士の配置など、防災に係る体制が適切であったか。
⑦防災に関する研修・訓練が効果的に実施されていたか。
⑧事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。
【所見】 ○ 施設の利用受付に当たっては、大会の開催日程などには配慮しつつ、施設設置条例及び関連規定等を遵守し、利用目的を確認し、公平・平等な取り扱いを確実にしている。 ○ 基本協定に基づいた施設や貸与物品の補修は迅速かつ適切に行われている。 ○ 安全管理体制や災害発生時の対応については、安全管理マニュアルを整備し緊急時に備えている。なお、利用者を含んだ避難訓練は行っていない。

【総合評価】

【所見】 ○ 施設利用者へのアンケートでは、25年度から29年度の毎年、高評価を受けている。 ○ 多目的グラウンドの利用者数は、25年度以降年々減少している。(28年度以降は目標指数10,500人を下回っている) 【今後の対応】 ○ 芝の状況が悪化した28年度から利用者数が目標を下回り、その傾向は29年度にも続いている。現在の利用者満足度を維持するとともに利用者数の確保のためにも、芝の適切な管理が課題と言える。 ○ 芝の適切な管理を行うために、30年度から県からの費用負担も含めて、これまで以上の徹底を行っている。一方で、収入の増を図るためには、利用時間の増(利用者数の増)が必要である。今後は利用者の満足度を維持しながらの効率的な施設運営について検討していく必要がある。 ○ 29年度に豊後大野市及び県の関係課で利活用について協議し、その結果、30年度から県、市施設の相乗効果を発揮するための施設改修を豊後大野市において実施(豊後大野市にて6月補正で基本計画策定予算を計上予定)することになった。施設の運営方針については、今後も豊後大野市と協議を継続する。

【指定管理者評価部会の意見】

【評価】 1 芝の状態は以前に比べると改善している点は評価できるが、その他の施設(シャワー室、トイレ、カヌー艇庫)の管理状況について改善が必要な点がある。
【意見】 1 AグラウンドとBグラウンドは面積に差があり、年間の利用時間を比較しても偏りが生じている。施設条件の差を踏まえ利用料金に差を設けるなどして、利用時間の平準化を図ってはどうか。 2 老朽化した救助艇が放置されていたり、シャワー室(3台中2台故障中)やトイレの管理状況が悪いので、利用者が気持ちよく利用できる状態を保つようにしていただきたい。 3 カヌー協会に再委託しているカヌー艇庫の利用状況や収支について適切に把握すること。
【施設所管課に対する意見】 1 利用者の利便性向上及び収入の増加の観点から、グラウンドの近くに自動販売機(飲料水)の設置を検討できないか。 2 長期的に考えれば、大分トリニータなどの主たる利用者に施設管理を任せることも検討してはどうか。